

みなとぴあボランティアレター 第40号

新潟市歴史博物館 みなとぴあ/2019.11

7/28 暑気払い

7月28日(日)に毎年恒例の暑気払いが行われました。今年は、「久しぶりにみなとぴあでやりたい!」という声が多く寄せられたため、旧第四銀行住吉町支店2階の会議室内での開催となりました。

会は、ボランティア山崎さんの司会のもと、伊東館長の乾杯のご挨拶で開幕しました。今回は、会場にビールサーバーを運び込み、割烹「秋やま」さんからお弁当を取り寄せて行いました。夜のみなとぴあの敷地を眺めながら、美味しい食事やお酒を飲めるのは、みなとぴあのボランティアの特権です。

中盤には、山崎さん手作りの陶芸品が当たる抽選会も開催されました。当選した方は、陶芸品を手に入れ、嬉しそうな表情を浮かべていました。

最後は、小林副館長のご挨拶で閉幕となりました。最近、駅前や古町の居酒屋さんで行うことが多かった暑気払いですが、今回はみなとぴあ開催ということで、下町に住んでいる方で初めて参加して下さった方がいらっしまったこともうれしい限りでした。幹事を引き受けて下さった山崎さんと鳥山さん、ありがとうございました。



今回は、17名の方が参加して下さいました!

8/12 歴史探訪(中越編)

8月12日(月)に、今年1回目となる歴史探訪を行いました。今回は、「雪国の文化と火焰型土器をたずねて」と題し、中越地方の縄文・弥生文化を学びました。また、今回は小林副館長にも同行していただきました。

まず、最初に訪ねたのは、十日町市博物館です。ここでは、学芸員さんにご案内いただきながら、見学しました。まず、最初に目を引いたのは、常設展示室前にあった国宝の火焰型土器と王冠型土器のレプリカです。これは、「手で触れることができる国宝」ということで、触ることが可能です。素材感や重さなど細部までこだわって製作されており、実物の土器を体感できたような気分になりました。

そして、常設展示室では、今回のお目当てである国宝第1号に登録された火焰型土器を見学しました。土器の特徴や製作時期といった基本的な情報だけでなく、発掘当時の話や国宝に登録されるまでの道のりなども知ることができました。何より、参加者の皆さんが積極的



十日町市博物館にて。国宝に指定された土器を数多く見る事ができました!

に質問をして、自分の知識を深めようとしている姿がとても印象的でした。他にも、十日町市の歴史や博物館の裏話などもうかがうことができ、とても有意義な時間でした。

昼食は、十日町市の「小島屋和亭」さんで、十日町市の名物であるお蕎麦とミニ天井のセットをいただきました。お蕎麦がさっぱりしていて美味しかったと参加者の皆さんにも好評でした。

お腹いっぱいになった後、向かったのは笹山遺跡です。ここは、縄文中期から後期にかけての住居跡や土器が多く出土した場所であり、国宝に登録された土器群が出土した場所でもあります。遺跡内には、竪穴式住居を復元したものを設置するなど、縄文時代の生活の様子を想像させるような工夫がされており、参加者たちは、縄文時代の人々の生活を想像し、語り合っていました。



**農と縄文の体験実習館(なじょもん)にて。
当日は、近くにあるひまわり畑が満開でした！**

次に、津南町に移動し、農と縄文の体験実習館(なじょもん)を見学しました。ここは、勾玉づくりなどの縄文時代の生活体験ができる場所で、子供たちにも人気のある施設です。時間の関係上、体験活動はできませんでしたが、土器の実物に触れることができるコーナーなどで、楽しく学びながら見学することができました。

少し移動し、次に津南町歴史民俗資料館を見学しました。ここには、津南町周辺で出土した土器や石器、また多くの民具が展示されており、考古学と民俗学の両面から津南町の歴史

を学ぶことができる施設です。民具のコーナーでは、ワラで作られた輪を飛ばしてウサギを捕獲する「ワダラ」というユニークな道具に、参加者たちは目を輝かせていました。

最後は、長岡へ移動し、馬高縄文館を見学しました。ここでは、学芸員さんのご案内のもと、時代別の土器の特徴や石器の石材などについて学ぶとともに、「ミス馬高」と呼ばれる珍しい形をした土偶などもみることができました。

今回は、国宝に指定された土器群をはじめとする縄文文化について、深い部分まで知ることのできた歴史探訪でした。幹事を務めてくださった皆さま、参加してくださった皆さま、ありがとうございました。

10/6 歴史探訪(酒田・鶴岡編)

10月6日(日)に、歴史探訪の2回目を行いました。今回は、「戊辰戦争 庄内藩と南州翁(西郷隆盛)の足跡をたずねる」と題し、山形県の酒田市と鶴岡市の戊辰戦争ゆかりの地などを訪ねました。そして、今回も小林副館長に同行していただきました。

最初に訪れたのは、鶴岡市にある庄内藩校致道館です。ここは、庄内藩酒井家9代目である忠徳が藩政の振興を図るために文化2(1805)年に創設した学校で、国の史跡に登録されています。ここでは、学芸員さんのご案内のもと、致道館の構造や生活の実態について学びました。参加者の多くの方が興味を持っていたようで、質問が飛び交っていました。中には、「生徒さん同士での恋愛はどのような感じでしたか？」などといったユニークな質問もありました。

次に訪れたのは、藤沢周平記念館です。藤沢周平は、日本を代表する時代小説家であり、江戸時代の庶民や下級武士の生活を題材にした小説を数多く執筆しています。ここでは、藤沢の生涯や作品の背景について学びました。藤沢の書斎が再現されていたスペースには、歴史関係の書籍が多く見受けられ、歴史を熱心に勉強した上で、小説と向き合っている姿が想像できました。

昼食は、「割烹食堂 伊豆菊」さんで海鮮丼をいただきました。多くの海鮮がのっており、食べ応え十分でした。お味噌汁も海老の出汁が濃厚で美味しかったです。



午後は、酒田に移動し、本間家旧本邸の見学からスタート。本間家は、本間家3代目当主である光丘^{みつおか}が幕府の巡見使一行を迎えるための宿舎として明和5(1768)年に新築し、庄内藩主酒井家に献上した武家屋敷です。ここでは、学芸員さんご案内のもと、本間家の歴史や構造を学びました。庭には、北前船で運ばれた佐渡原産の赤玉石があり、新潟との接点を感じられました。また、入り口前には樹齢400年の「伏龍^{がりゅう}の松」と呼ばれる赤松があり、参加者たちは松に抱きつき400年のパワーをもらっていました。

その後、南洲神社を訪れました。南洲とは、西郷隆盛のことを指します。西郷は、戊辰戦争の後、幕府軍であった庄内藩に寛大な降伏条件を与えました。その遺徳をたたえ、昭和51(1976)年に創建されたのが南洲神社です。ここでは、神社を運営する庄内南洲会の阿曾さんご案内のもと、庄内と西郷の関わりを学ぶとともに、西郷に関わる逸品を見せていただきました。

最後は、山居倉庫を見学しました。山居倉庫は、明治26(1893)年に酒田米穀取引所の付属倉庫として完成した施設で、現在ではお買い物スポットとしても人気です。参加者は、倉庫群とケヤキ並木の風情を楽しんでいました。

今回の歴史探訪では、戊辰戦争の歴史だけではなく、酒田・鶴岡の通史や文化も学ぶことができました。幹事を務めてくださった皆さま、参加してくださった皆さま、ありがとうございました。



南洲神社にて。
解説していただいた阿曾さんも一緒に写真撮影！

活動報告 よろい研究会「川村修就のよろい完成！ーよろい研に参加してー」

約4年前、ボランティア室のよろいの草ずり（よろいのスカート部分）の威し方（紐の綴り方、緒通し）はどうなっているんだろう？と藤崎さんが色々試している場面に出会いました。それがよろい研への扉でした。体験の広場のプログラム「大きな紙で愛の兜を作ろう」で兜ができればよろいも付けて写真が撮れば楽しいよね、ということで段ボールのよろい作りが始まっていました。そこへ私は引き込まれていきました。

最初は「なんちゃってよろい」で良いと思っていました。段ボールの子供用よろいは模型を作っている人のHPから設計図をダウンロードして、身長140cmに合うように作りました。しかし着せてみると、いかにも段ボールです！という縦線が現れて、やっぱりもう少し何とかしたいと、みんなが思うようになりました。そこで、よろいは元々大人の物なのだから、まずは大人のよろいを作ってみて、そもそもどのように作られているか知ろう！ということになりました。では、何を見本とするか？みなとぴあには初代奉行：川村修就の鎧兜が収蔵されています。藍野さんの提案で、それを見本に手に入る素材を使って大人サイズのよろい作りが始まりました。鎧は武器の種類と戦い方により時代とともにタイプが変わってきました。私はいまだに

各部の名称もうろ覚えの状態ですが、川村の鎧はステータスシンボルとして作られた復古調の腹巻に背板が付くタイプです。

昨年3月と6月、川村の鎧が展示される前後に計測と撮影をさせていただきました。各部のサイズを基に段ボールで腹巻の銅部の方を作り、小札板6段分の型紙をとって厚紙を切り、牛乳パックでつくった古札（こざね）を貼り付けていきました。牛乳パックは繊維が緻密で威糸をかけたときに穴がボソボソにならずにすむのが利点です。その小札板の表面を包むように障子紙を貼りつけ、威糸をかける穴を開けていきました。次に絵の具で黒く塗って、乾いたらボンドを少し薄めて表面に塗っていきました。それが乾くと艶がでて、なんかとても良い感じになりました。草で包んで漆を塗ったような雰囲気が出せて、絵の具とボンド塗りもやり甲斐のある作業でした。

草ずりは腹巻に7間、背板に1間ついていて、最下段の飾り威しは最初はどうやっているのか分からず、色々やってみて写真に見えているような模様を作り出すことができました。何とかそれらしく作れるようになってくると、とても面白く楽しくなってきました！とうとう今年の5月の「大きな紙で兜を作ろう」のプログラムでは、紙で作った川村のよろいを披露することができ、また10月半ばにはヘルメットを土台にした兜までできあがりしました。11月14日にお披露目をしますので、是非ご覧ください。

そして…ここからが本番！です。「大きな紙で兜を折ったらよろいを着て写真を撮ろう！」と子供たちを誘うために、着脱の楽な子供用よろいを作りたいと考えています。よろい研で試行錯誤した方法で子供用よろいを作る「よろい工房」を始めませんか？みんなで楽しくつくりましょう！

（よろい研：濱口順子）



職員のご紹介



学芸課

きたむら ゆうこ
北村 裕子

秋田県湯沢市出身

本年8月より学芸課及び企画普及課の補助業務をしております。遠い昔、学生時代のゼミが歴史（近世新潟町！）でしたので、飛び交う歴史話が懐かしくとても興味深い毎日ですが、嘗ての賑わう古町の話題にも何ら違和感ない自分が怖いのです。みなとびあが、見学だけでなく市民が生き生きと学び活動する場であることも日々実感しています。来年3月までの短い間ですがどうぞ宜しくお願いいたします。

【編集後記】

今回は、暑気払い、歴史探訪、よろい研究会の話題をお届けしました。歴史探訪の際、あるボランティアさんが、「ボランティア活動を通じて、今までよりも明るくなったような気がする」とおっしゃって下さった方がいらっしゃいました。個人的にすごく嬉しかったです。今後も、みなとびあでお客さんやボランティア同士のコミュニケーションを楽しんでいただきたいと思います。と改めて感じました。（鈴木）

2019. 6. 25 現在

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、開港150周年を迎えた新潟の街をみんなで盛り上げていこう！という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体みなさんからご協賛をいただいています。

